

当院におけるクリオプレシピテートの使用状況の解析

◎福岡 星夜¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、平木 幹久¹⁾、西山 陽香¹⁾、内田 有咲¹⁾、吉丸 希歩¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】当院は、2017年11月から同種クリオプレシピテート(以下、クリオ)の院内調整を開始した。2020年の診療報酬改定で、同種クリオプレシピテート作成術(1バッグにつき600点)が算定できるようになり、院内調整を検討する施設が増加している。今回、調整開始からこれまでの使用状況を後方視的に解析したため報告する。

【対象】2018年1月から2021年12月までのクリオ症例数(使用量)を年次別に解析し、各診療科の使用状況、同型クリオ及び異型クリオの使用状況についても確認した。なお、使用量はFFP-LR480から調整したクリオを4単位とし解析した。

【結果】2018年は106件(1168単位)、2019年は146件(1740単位)、2020年は119件(1396単位)、2021年は104件(1204単位)であった。診療科については心臓血管外科が304件(3686単位)で使用量が最も多く、次いで外傷外科168件(1780単位)、産婦人科3件(32単位)であった。同型クリオ及び異型クリオの使用状況については同型クリオ66.3%、異型クリオ33.7%であった。

【考察】2020年以降はクリオの使用量が減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で人流が抑制され、外傷患者の減少が影響したと推察する。当院は救急救命センターを併設しており、血液型確定前の緊急輸血が多いことから、外傷外科の異型(AB型)クリオ使用が多い傾向にあると考えられた。過去に心臓血管外科と外傷外科のクリオ使用が重なり、AB型クリオの在庫が無く、FFPで対応する事例が発生したこともあり、AB型クリオの在庫数を9バッグ(その他の血液型は3バッグ)に増加した。期限切れによる廃血はこれまでに発生していないため、適正在庫での運用が行えていると考えられた。

【まとめ】クリオの使用状況について解析した。これからも臨床と協議し、適正在庫を維持するとともに適正使用についても助言できるよう努力していきたい。

連絡先:096-384-2111(内線:6371)